

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-① ICT機器を活用した授業の保護者参観

～グローバルクラスにおけるpresentation assembly～ (香港校小学部 グローバルクラス)

活動の概要・目的

【概要】

グローバルクラスでは例年、ポスターセッション形式で保護者を学校に招いて日々の学習成果を発表していました。しかし今年度は、コロナ禍の影響で例年の教育活動が出来なくなったため、オンライン（ZOOM）を使い、その学習成果を披露することとしました。

【目的】

児童が夏休みを使い、個々に探求した学習を発表する機会とするとともに、プレゼンテーションを通して得た他者からのフィードバックや自己の振り返りを生かし、英語力の向上を目的とする。

活動における授業準備

- ・1人1台クロームブックを使って、発表用の情報収集や資料の作成を行った。
- ・事前に教師のサポートのもと、ZOOMでの発表練習等を行ってIT機器の使い方を児童に学ばせた。

活動の成果と課題

- ・大埔校の児童や職員も参加することが出来たので、グローバルクラスの授業の内容を知ってもらう場にもなった。
- ・子どもたちは多くのIT機器を駆使しながら、プレゼンテーションの準備や発表を行ったことにより、様々な環境においても人と人がつながってコミュニケーション活動ができることを学ぶことが出来た。
- ・多くの方に参観してもらったが、関係者かどうかを把握することが難しい場面が見られた。(セキュリティ面での課題)

Global Class Presentation Assembly

Presentation Assemblyの目的

本発表会は、香港日本人学校グローバルクラスの児童が、同じグローバルクラスの児童・教員に向けて、夏休みを使って個々に探求した学習を発表する機会とするとともに、プレゼンテーションを通して得た他者からのフィードバックや自己の振り返りを生かし、リサーチスキル、プレゼンテーションスキル、英語力の向上を目的とする。

昨年度は対面でポスターセッション形式で発表を行いました。今年度はそれが実現できません。しかし、グローバルクラスの目指す児童の育成に向けて、この状況にも屈せずオンライン授業で学習を進めました。児童・教職員もまだまだ不慣れて、至らないことも多々あるかとは思いますが何卒温かい目で参観いただければ幸いです。

本資料につきましては、児童の名前、ZoomID等記載されておりますので、SNS等への転載はお止めください。

問い合わせ先: hkjs.globalclass@gmail.com

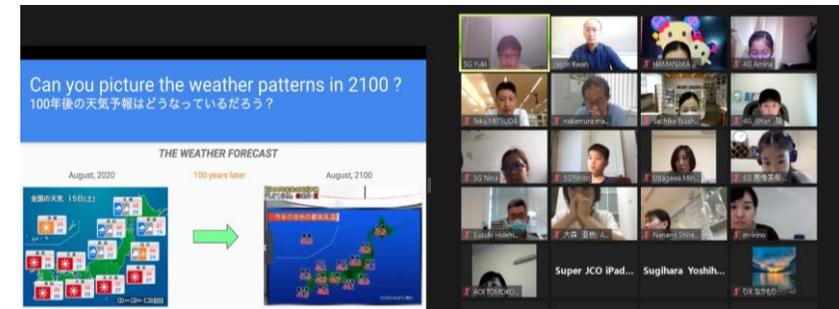


Presentation Assembly Day 1 15th September				
Time	Spring@Mr.Kwan Zoom ID:745-865-1398 Password:202043	Summer@Mr.Tomsett Zoom ID:274-906-2058 Password:202053	Autumn@Ms.Chow Zoom ID:833-551-1897 Password:202063	Winter@Mr.Tanaka Zoom ID:442-561-9375 Password:202077
13:30~13:40	Opening Ceremony @Mr. Ninomiya's room (プレゼンテーション集會開會式) Zoom ID: 588-094-3925 Password:202088			
Session 1 13:45~14:00	S-G Ohmori Yuki What is the effects of AIR POLLUTION?	So Jing Kwan How can we stop global warming?	5G Sota Fukuda All about global warming.	
Session 2 14:00~14:10	Why are kanjis different? P4G Shun Aoi	4-C Sasaki Hooya Differences between haves today and the past	4C Kei Takahashi All about MARKETs	4G Kei Hirao How do people use money?
Session 3 14:10~14:20	4G OSAKA Ayano Why is pizza so popular all over the world?	4E Riku Kano What do children do for fun around the world?	4G Haruka Tomi Why are there three different ways in Japanese to express the language?	
Session 4 14:20~14:35	6G TAKAHASHI MIYU War's development	6G Tanaka Anna Why did war break out in the world?	6G Sawai Tomonari Unexpected relationship between battle and education	

プレゼンテーションのスケジュール



子どもたちの作業風景



プレゼンテーションの様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-② オンライン会議システムを活用した全校集会 ～ 夏休み明け集会 ～

(香港校小学部)

活動の概要・目的

【概要】

- ・ 例年、学校の体育館に全児童を集めて、長期休業前と後に集会を行っていました。今年政府からの通知により臨時休校となってしまったためZOOMを使い、全校児童(240名)でオンライン集会を実施しました。

【目的】

- ・ 子どもたちにとって臨時休業中での夏休み明けとなり、今後のオンラインでの授業や学校再開に向けての希望が持てるよう集会にて話をする。

令和2年8月17日

夏休み明け集会と20日の授業について

教務

<夏休み明け集会>

- 1 わらわら: 夏休み明けのオンライン授業や学校再開に向けての希望がもてるようにする。
- 2 日時: 8月20日(木) 8:30~8:40 (朝の会)
- 3 方法: Zoomを使用して小学部全員で実施する。
- 4 日程: 8:20~ Zoom 入室開始
(ミーティングルームID: 636-701-0657 PW: 202001)
8:30~ 夏休み明け集会(司会: 教務)
(1) 校長先生の話
(2) 児童代表の言葉(6年 藤田隼月)
8:40 Zoom 退出
- 5 その他:
○ Zoomの1つのミーティングルームに小学部全員が入室して集会を行います。

夏休み明け集会実施計画

活動における授業準備

- ・ 全校児童が参加できるZOOMの設定やID等の準備
- ・ メール配信システム(Sgrum)を使い、保護者に開催の通知をする。
- ・ 全校児童の入室許可等がスムーズに行えるよう、職員の役割分担をしておく。

活動の成果と課題

- ・ コロナウイルス防疫措置により、大人数が集まったの集会は行えないが、オンライン会議システムを使うことにより、伝えたい内容を一緒に共有することができ、今後の見通しについて前向きに思える児童が増えていた。
- ・ ZOOMを使うことにより多くの児童が顔を見て、互いのつながりを意識することができた。
- ・ 一度に画面に児童が映らないため、参加児童の把握が難しい。

配信先媒体	アプリ
配信先詳細	グループ指定 小学部 小学部
グループ選択条件	OR条件
重要フラグ	重要マークを付加して配信
配信タイミング	即時配信
タイトル	【重要】20日朝の「夏休み明け集会」について
内容	小学部保護者の皆様 お世話になります。 さて、夏休みが明ける20日朝は、朝の会の時間を使って、小学部全員で「夏休み明け集会」を行いたいと思います。 添付しました資料をご覧ください、指定のミーティングルームに入室してください。 なお、入室中はZoomの音声の設定をミュートにしておいてください。 夏休み明けもオンライン授業が続きます。20日は午前中の授業のみになります。 時間割等は明日19日に、スグラムでお知らせいたします。 以上、よろしくお願いたします。

メール配信(Sgrum)で保護者・児童に実施の周知



ZOOMを使った全校集会の様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-④ オンライン会議システムを活用した面談

～ ZOOMを使った三者面談～

(香港校中学部)

活動の概要・目的

【概要】

- ・ 教員・生徒・保護者の三者で行う。
- ・ 後期を振り返り、学校生活での集団適応や自分の果たした役割等または、友人関係・学習面・健康面・進路指導等の様子を伝え、成果や課題を共有して、生徒の成長を促す。

【目的】

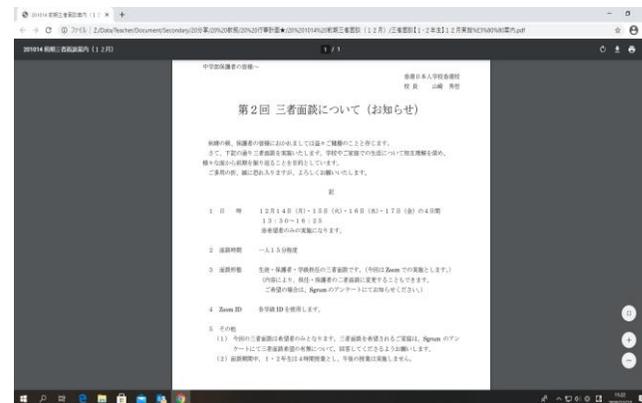
- ・ 生徒理解を深め、日頃の学級経営や教育活動の一助とする。
- ・ 保護者に生徒の学校生活の様子を伝え、学校と家庭の共通理解を図る。

活動における授業準備

- ・ 全校児童生徒が各教室から視聴できるZOOMの設定やID等の準備。
- ・ メール配信システム（Sgrum）を使い、保護者に開催の通知をする。
- ・ 入室許可等がスムーズに行えるよう、職員の役割分担をしておく。

活動の成果と課題

- (成果)・コロナウイルス防疫措置により、実際に対面して面談が行えなかったが、オンライン会議システムを使うことにより、今年度の学校の方針や児童生徒の学習状況・進路選択に関わる情報交換などを行うことができた。
- ・ 例年、必ず対面で行っていたが、ZOOMを活用することで、仕事をされている保護者や生徒本人と3か所を結んで面談ができ、保護者にとっては時間を有効に利用できて助かったという感想が多かった。
- (課題)・wi-fiの不具合が生じ、時間を変更したり、延長して実施しなければならないことがあった。



面談のお知らせ



ZOOM面談・懇談会の様子

1-⑥ オンライン会議システムを活用した委員会活動

(大埔校)

活動の概要・目的

【概要】

- ・実践日時 2020年9月16日 15時～15時30分
- ・対象学年 5年生, 6年生

学校再開後も教育活動において様々な制限があり、児童同士が対面で話し合う活動を行うのは難しい。そのような状況下でもオンライン会議システムを活用して委員会活動を行うことで、児童同士が顔を見て話し合う活動ができ、対話的な活動が行いやすい環境であった。

【目的】

- ・授業時数が足りない中で、帰宅後の時間を利用しZoomで委員会の時間を確保する。
- ・学校では対面で話し合うことができないため、Zoomを利用し対面で話し合い活動ができる場を作る。



【Zoomで委員会を行う教師】

活動における授業準備

- ・使用機器 パソコン・実物投影機
- ・使用ソフト GoogleClassroom・Zoom

前日までに教員はGoogleカレンダーを使い担当の児童を委員会に招待しておいた。児童下校後、教員はZoomをたちあげ委員会の準備をした。5, 6年生は帰宅後、15時よりZoomを使いそれぞれの委員会活動に参加した。



【Zoomで委員会に参加する児童】

活動の成果と課題

教師は児童にテーマをもたせ委員会活動がスムーズに進むよう、コーディネーター役に徹していた。児童はねらいをもっていたので、ズームであっても話し合い活動ができた。また、学校では異学年の交流が難しいため、オンラインでの異学年交流は、児童にとっても貴重な体験であり、教育的価値は大きいと考える。

課題としては、インターネット環境が児童それぞれで違うため、技術的な問題で委員会に参加できない児童や、参加してもすぐに途切れてしまう児童もいたことが挙げられる。途中で画面が止まってしまうたり、スムーズに映像が流れなかったりすることも多々あった。今後、委員会活動だけでなく、オンライン会議システムを活用するために改善していかないといけない課題である。



【ホワイトボードも使用】

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑥ オンライン会議システムを活用した委員会活動

～ ZOOMを使った通常活動&生徒会の取り組み ～

(香港校中学部)

活動の概要・目的

【概要】・例年、月2回程度、放課後に各教室で委員会活動を行ったが、今年度はコロナ禍の影響により、例年行っていた活動ができなくなったため、ZOOMを使い、オンラインでの委員会活動、様々な取り組み（生徒集会、任命式、生徒会選挙）を行った。

【目的】・委員会活動を通して、自治的活動の意識を高めると同時に、一人一人が学校のためにできることは何かということを考えられるようにする。



ZOOMを使った生徒集会の様子

活動における授業準備

- ・生徒会役員が参加できるZOOMの設定やID等の準備
- ・事前に教師の準備とともに資料作成（パワポ、ワードなど）や発表用の資料の作成、IT機器の使い方を生徒に指導した。
- ・全教室の入室許可等がスムーズに行えるよう、ZOOMの設定やID等の確認をした上で、職員間で役割を決めた。

活動の成果と課題

- コロナ禍により、様々な制限があったが、オンライン上でも、役員決めや委員会活動、その他様々な取り組みをすることができた。
- 委員会企画はオンライン（ZOOM）、確認・実行は学校でというサイクルができ、生徒もやりがいをもって活動ができた。
- ▲決まった時間内に全員が参加することが難しかったり話し合いが盛り上がりず、一方的になりがちになってしまったりと課題もあった。



ZOOMを使った生徒会選挙の様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑦ オンライン会議システムを活用した授業見学

～香港校小学部グローバルクラスPresentation assembly参観～

(大埔校)

活動の概要・目的

【概要】

香港校小学部グローバルクラスがオンラインを使って学習成果を披露する機会を利用してもらい、それを参観することで香港校との交流を行うとともに自身の発表のスキル向上を目指すことにしました。

【目的】

児童が、個々のスライド発表やプレゼンテーションする機会とするとともに、香港校小学部グローバルクラスの発表を通して得た技術を学ぶ。



活動における授業準備

- ・ ゲーグルスライドの使い方、プレゼンの仕方を児童に学ばせた。
- ・ ゲーグルスライドを使って、自分の出身地の特産物についての発表用資料の作成を行った。



活動の成果と課題

- ・ 香港校グローバルクラスの授業様子を知り、児童自身に取り組む学習の参考となった。
- ・ 参観後に感想を書くことで、自身のふりかえりとなり、事後の学習にもつながった。
- ・ 観点立てて発表を聞き、適切に反応を返すことについては、今後の課題として残った。



コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑧ 香港校と大埔校のオンライン会議システムを活用した交流活動 ～ P6 香港名所めぐりツアー 香港校との交流 ～

(大埔校)

活動の概要・目的

【概要】例年であれば、沖縄に修学旅行に行っていたが、COVID-19の状況で難しくなった。香港内での修学旅行に変更し、理想のツアーを組み立てることにした。香港の良さをアピールできるツアーで、香港に初めてくる小学生でも、香港のことをよく知っているだろう香港校の六年生でも満足のできるツアーを目標に組み立てた。実際にその場所へ取材に行き、街の様子や人々の様子、店の取材などを行って、見た人が参加したくなるような素材を使ったスライドを作り上げて集大成としたい。

【目的】今回は、取材を行う前の段階でプレゼンを行い、香港の良さを知っているだろう香港校の6年生にアドバイスをもらった。それぞれアドバイスしてほしい事柄を事前に伝え、改善するポイントを絞って交流を行った。

活動における授業準備

- ・ 修学旅行として、自分が参加したい理想の名所めぐりツアーを組み立てる。
- ・ 自分のツアーをスライドにまとめ、プレゼンテーションをする。

活動の成果と課題

- ・ 香港の魅力を高層ビルや夜景などだけでなく、自然、人々のやさしさなどに気づききっかけになった。
- ・ 発表する際に、アドバイスをもらいたい観点を絞ることで、スライド作りや発表の仕方などを意識して練習することができた。
- ・ 各ブースに分かれることで、短いながら集中して交流することができた。
- ・ 同じ立場の相手に聞いてもらうことで、よりよい緊張感をもつことができた。



音楽室でZoom

音楽室でZoom



図書室でZoom



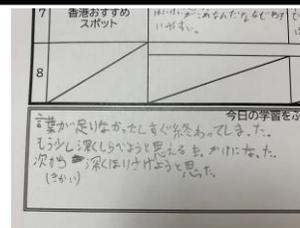
空き教室でZoom



各教室でZoom



相手の顔を見ながら自分のスライドを映す



自分だけでは気付かなかった課題に気付いた事が分かるワークシート

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑧ 香港校と大埔校のオンライン会議システムを活用した交流活動

～ 香港校中学部から大埔校・香港校6年生へ向けての中学部紹介 ～ （ 香港校中学部 ）

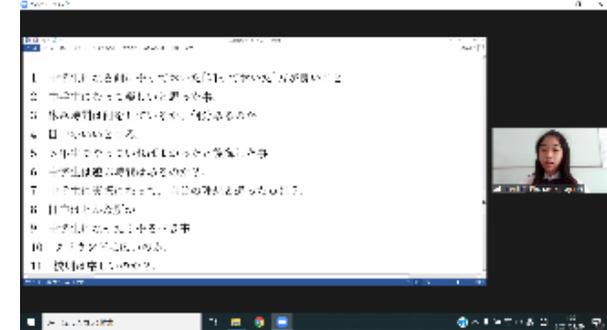
活動の概要・目的

- 【概要】・例年、中学部の体験入学として授業体験や部活動見学を行っていたが、今年度はコロナ禍の影響により、例年行っていた活動ができなくなったため、ZOOMを使い、オンラインでの中学部紹介（委員会活動、部活動、質疑応答）を行った。今回は、6年生から事前にアンケートをとり、それに回答するという形で児童の疑問に答えた。
- 【目的】・オンラインでの中学部紹介（委員会活動、部活動）を通して、分かりやすい資料作成と分かりやすい発表方法を学ぶ機会とする。
・小学生は、中学部を知り、安心して入学できるようにする。



活動における授業準備

- ・香港校と大埔校の児童が参加できるZOOMの設定やID等の準備
- ・事前に生徒とともに教師の方で資料の作成（パワポ、ワード、動画撮影など）や発表用の原稿の作成を行い、次にIT機器の使い方を指導した。
- ・香港校、大埔校とも入室許可等がスムーズに行えるよう、ZOOMの設定やID等の確認をした上で、職員間で役割を決めた。



活動の成果と課題

- ZOOMを使うことにより、密を避けることができ、香港校と大埔校の児童や先生方に参加してもらうことができ、中学部のことを知ってもらえる機会にできた。
- 実際に対面しない中で、どのように説明すればより理解してもらえるかということを生徒たちが意識して取り組んだのと同時に、事前の打ち合わせやリハーサルをzoom等で行ったため時間通りスムーズに行えた。
- ▲決まった時間内に全員が参加することが難しかったり、説明が一方的になりがちになってしまったりと課題もあった。
- ▲映像が配信途中に止まってしまうトラブルがあった。画面共有など作業するデバイス、入室を許可をするデバイスなど1端末1作業というようにしたほうが良いことがわかった。



ZOOMを使った中学部紹介の様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑨ オンライン会議システムを活用した三校合同朝会

(香港校小学部・中学部、大埔校 全児童生徒)

活動の概要・目的

【概要】

・例年、香港校では小学部・中学部合同朝会が行われていたが、コロナ禍において、集会が禁止されたためオンラインで実施を計画した。そこで、オンラインでの実施という機会を活かし大埔校と一緒に三校合同の朝会を実施することとした。

【目的】

・休校によってオンライン授業が長期間になる状況において、各校の校長からの講話を聞くことで、学習に対して意欲的に取り組もうとする態度を育てる機会とする。

活動における授業準備

- ・三校合同朝会実施計画の作成
- ・合同朝会に向けての三校での実施計画の検討会の実施

活動の成果と課題

<成果> オンラインで実施したことで、

- ① 香港校、大埔校の全校生徒が一斉の同じ講話を聞く機会をつくることできた。
- ② 香港校・大埔校の校長だけでなく、大埔校国際学級校長の講話を英語で聞き、普段から力を入れてきた英語力を試す機会になった。

<課題>

- ① 短時間で700名近い児童生徒が各自宅から視聴していたが、入室に時間がかかり、また、再度入室できない児童生徒も出てしまった。
- ② 3名の校長の講話をリレー方式で行ったが、スムーズに流れないところがあった。

令和2年12月15日

令和2年度 三校合同朝会実施計画

1 目的	コロナ禍での休校が続く中、校長先生の講話を聞いてオンライン授業での学習に対する意欲を高める。	
2 日時	令和2年12月22日(水) 8:20~8:35	8:22
3 実施方法	Zoomによるオンラインでの実施	8:23~8:26
4 使用ID	Zoom ID 544-309-2509 PW 142857	8:27
5 参加者	香港日本人学校香港校小学部・中学部 香港日本人学校大埔校の児童、生徒、職員 大埔校国際学級 ツォルトン校長	8:27~8:30
6 内容	香港校、大埔校、大埔校国際学級の各校長の講話	8:28
7 流れ		8:29~8:32

時間	実施の流れ
-8:00	① 中学部のZoom立ち上げます
8:05~8:15	② 児童・生徒 → Zoomに待機
8:15~8:20	③ 児童・生徒のZoom入室許可
8:20~	(三校合同朝会) ④ 【香港校】 「それでは、これから三校合同朝会を始めます。」 「朝のあいさつをします。みなさんはズームのままでお待ちしてください。」 ※校長先生はZoomの前に移動 「代表で登場する年0000さん、ズームを列外してあげてをお願いします。」 ⑤ 【代表児童】@ズームを外す 「はい」 「おはようございます」 ※他の児童・生徒は、ズームのままあいさつをする。 ※校長先生方は、ズームを列外してあいさつをお願いします。
8:34	⑥ 【香港校】 Zoomをオフする
8:35	⑦ 【香港校】 PCを片付ける

8 その他 設定についての講話
 ① スポットライト機能を使って、話している人の画面に大きく映るようにする。
 ② 児童・生徒が朝会の開始時点でズームになっているように設定する。



コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑩ オンライン会議システムを活用した現地校児童との交流 ～ P4 WKS (崇徳黄建常記念学校) 校交流会 ～

(大埔校)

活動の概要・目的

【概要】毎年、学年を設定して交流学习を行っている。今年はCOVID-19の影響による休校措置などで難しいと思われたが、ZOOMを通して交流をすることが可能になった。学校に来られなくても各家庭からのZOOMへの参加により、交流学习を行う事ができることへの期待と、直接交流ができない時でも可能な活動や指導ができるという期待のもとに、交流学习を進めることにした。

【目的】児童の現地校理解を目的とする。また、指導者側としては、ZOOMによる交流のできることを研究し、児童が意欲的に活動に参加できるような活動の提案を目的とした。

活動における授業準備

- ・ WKS校の担当教員と活動の時間や内容について事前打ち合わせをした。
- ・ こちらの提案するゲームについて、動画を用意し、事前に周知してもらった。
- ・ グループをどのくらいの人数にするか、活動内容の変更点の連絡など相手校とメールでのやり取りを行った。
- ・ WKS校からの活動について、事前に送ってもらった動画視聴を行った。
- ・ 英語による活動の説明をするため、児童の役割分担の話し合いや台詞の練習などの時間を児童の様子を見ながらしっかり取るようにした。

活動の成果と課題

- ・ 児童は、自分たちがよく知っている遊びを英語で伝えるために、真剣に練習に取り組んでいた。本番では英語がうまく伝わらず、どうにかして伝えようと奮闘する姿が見られた。
- ・ これまでは、実際に会って活動を一緒にすることができたが、初めてのzoomを使った交流ということで、どの程度の情報共有が必要なのかわからなかった。特に、zoomを使う際の両校共通のルールの徹底ができなかったことが大きかった。
- ・ 英語での交流が難しいグループが多かったことから、お互いにどのくらい英語を話すことができるのか、教員同士で情報共有をもっとしておくべきだった。オンラインでの交流では、普段よりも特にコミュニケーションを重要視しないといけないことがわかった。



dance in the streets and the city slows down to



コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑪ オンライン会議システムを活用した日本の中学校との学級委員会交流会議

～ Zoomを使った2校合同交流委員会 ～

(香港校中学部)

活動の概要・目的

【概要】

- ・ (生徒向け) 香港日本人学校香港校中学部の学級委員会と大阪府枚方市立長尾中学校の代議委員会でZOOMを通して学校生活や学級委員会の取り組みについて交流を行う。

【目的】

- ・ 学校という垣根を超え、学年・学級をより良くしたいという同じ志を持つ生徒たちが交流する機会を持ち、アイデア交流や他校という比較対象を考えることで、自校に対して誇り・自信を持ってより積極的に活動を行えるようにする。また学級委員として「できること・取り組むこと」の視野を広げる。
- ・ (教師向け) 実際に国内の学校と交流作業を行う上での課題を見つけ解決を進める。またオンライン交流での可能性を探る。

活動における授業準備

- ・ 事前の学級委員会にて両校ともにある程度のルールを決めた。例えば司会者は初回は香港校側が、二回目は長尾側がするなど。話終われば「以上です」と伝えるなどオンラインでのタイムラグ対策なども行なった。
- ・ 事前に初回のため学級委員会の学年目標や設定の理由など共通項を設定しそれについての意見交流を行えるように準備をした(初回分)。第二回目以降は質疑応答を中心に設定をし、馴染んできた生徒たちは即興での交流を楽しんだ。

活動の成果と課題

- ・ 両校の置かれている状況がとても違い、学年や学級で大切にしていきたいものも大きく違った。そういったことを交流し、お互いの学校の子どもたちは新たな観点を手に入れられたようだ。
- ・ 学級委員が学年を代表して交流を行ったことで学級委員以外の子どもたちも交流をしてみたいという声もあった。
- ・ 学校的には学校をオンラインで繋ぎ交流を行う上でのフォーマット、また押さえておくべきポイントなども見え、今後の発展に期待ができる結果が得られたと思う。
- ・ 香港と日本には1時間の時差があり、通常授業の中では時間設定が非常に難しい。今回は日本は通常授業、香港は学校が休校でオンライン授業+懇談期間で午前授業ということで時間を見つけることができた。

ZOOM交流会の様子



コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑫ オンライン会議システムを活用した特別授業（落語会） ～ ZOOMを使った日本の伝統文化学習 ～ （大埔校・香港校小学部・香港校中学部）

活動の概要・目的

【概要】

- ・ 昨年度、香港校で初めて行った「日本伝統文化学習（落語会）」を現在の状況でも継続して行うようZOOMによる落語会を計画した。児童生徒がLIVEで話のプロである落語家の話術を学んだり、日本の伝統文化を学ぶ機会とした。また、行事がない中、児童生徒がともに笑ったり、楽しい時間を共有する機会として行った。

【目的】

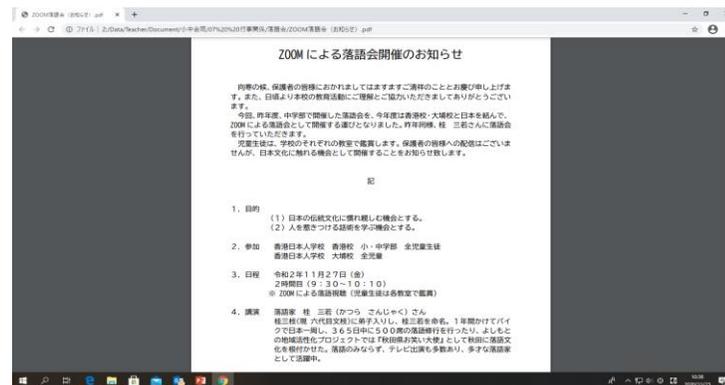
- ・ 日本の伝統文化である「落語」について学ぶ。
- ・ 人を惹きつける話術を学ぶ。

活動における授業準備

- ・ 全校児童生徒が各教室から視聴できるZOOMの設定やID等の準備。
- ・ 事前の打合せやリハーサルを行い、主催者とゲストの役割やスケジュール、当日の流れや接続に不具合があった際の対応等、共通理解を図る。
- ・ メール配信システム（Sgrum）を使い、保護者に開催の通知をする。
- ・ 入室許可等がスムーズに行えるよう、職員の役割分担をしておく。

活動の成果と課題

- ・ コロナウイルス防疫措置により、実際に目の前で、児童生徒全員が集まったの落語会は行えないが、オンライン会議システムを使うことにより、昨年度同様の学習をすることができた。
- ・ ZOOMを落語家の豊かな表情を大きく見ることができ、話術を堪能できた。魅力的な話し方や発表方法などそれぞれが参考にしようという気持ちで学ぶことができた。
- ・ ミュートを外すと落語が聞こえなくなり、ミュートのままだと児童生徒の反応が伝わらず、落語の魅力が味わえないことは課題である。



日本の伝統文化学習(落語会)お知らせ



ZOOM落語会の様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

1-⑬ オンライン会議システムを活用した外部講師による出張講座 ～国立天文台主催 ふれあい天文学講座～

(香港校中学部)

活動の概要・目的

【概要】

- ・オンライン会議システム(Zoom)を利用して、国立天文台の堀安範先生に日本から「太陽系の外の惑星そして地球外生命の探査の最前線」をテーマに中学部3年生に対して授業を実施した。

【目的】

- ・中3の理科の天体の学習に関連して、研究者の方から専門的な研究内容を生徒に紹介してもらい、中学校で学ぶ天文学の内容からより深い学びにつなげる。



スライドを使った授業の様子



活動における授業準備

- ・Zoomの設定やID等の準備および時間設定。
- ・事前に生徒に天文学についてのアンケートをとり、生徒の興味・関心について講師の先生に伝えた。
- ・研修当日の資料準備、次第、端末準備(PC、iPad、スピーカー)。



堀先生の質問に対して、生徒が挙手して答えている様子

活動の成果と課題

- ・本校ではこれまで日本の研究者の方の話聞く機会がなかったので、学校の授業では聞けない研究の話を知る貴重な機会となった。
- ・最先端の宇宙の研究の話を通して、生徒たちはより天文学への興味が増えたようであった。
- ・Zoomを使った講座はスムーズに行うことができたが、講師の先生と生徒たちの双方向のやり取りが活発であるとさらに生徒にとって楽しい授業になるので、教員の橋渡しが必要である。



代表生徒によるお礼のあいさつ

ふれあい天文学講座の
授業中の様子

コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業の取組事例

2-③ オンライン会議システムを活用した職員研修

～ 中学部 探究学習の授業づくり ～

(香港校中学部)

活動の概要・目的

【概要】

- ・ 香港校グローバルクラスの探究学習、中学部の探究学習の授業づくりのため、AG5アドバイザーの東京学芸大学教職大学院教授の赤羽寿夫先生に指導・助言をいただいた。(ZOOMによるオンラインで実施。)

【目的】

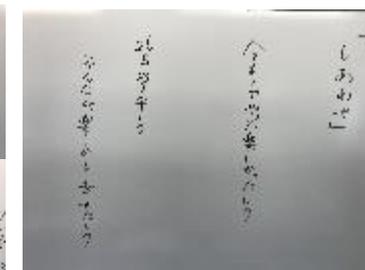
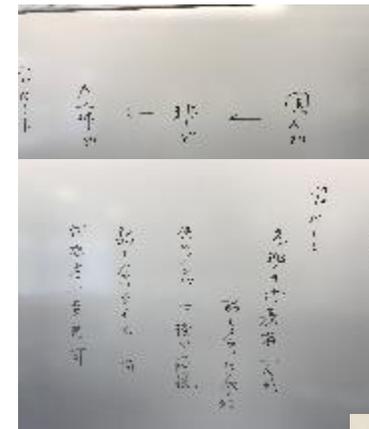
- ・ 中学部の探究学習の単元開発を行っていくため。
- ・ これからの教育に求められる、生徒の批判的思考力を育成するための指導方法を学ぶため。

活動における準備

- ・ ZOOMの設定やID等の準備および時間設定。
- ・ 現状報告と打合せ事項の内容を、アドバイザーにお知らせする。
- ・ 研修当日の資料準備、次第、端末準備。

活動の成果と課題

- (成果)・ 指導・助言いただいたことを生かして授業実践を行い、事後指導をいただく機会をもって、次の授業づくりに生かすことができた。
- ・ 指導案検討会、実際の授業、研究協議会という流れを、オンラインによって行うことができた。海外出張等しなくても、海外で研修を深める手立てとなった。
- (課題)・ 実際の授業を視聴していただく機会をもち、ZOOMによる指導助言の機会をもてると良い。時差1時間であるが、時間設定も工夫が必要である。



探究学習(中3)
道徳授業展開

代表者によるディベート

日本にいる生徒ともオンライン
で話し合い活動



ディベート後の作戦会議



2回目のディベート



探究学習(中3)道徳授業の様子